

蚕糸絹業技術と文化の継承

東京農工大学工学部 講師・学芸員 重松正矩

1. はじめに

わが国の蚕糸絹業は、3世紀に韓国を経て中国から導入された蚕糸技術と、19世紀に欧州から導入された蚕糸科学を基盤にして発達した。また、並行して染、織、組紐などの伝統工芸が盛んになり、能楽、歌舞伎、日本舞踊、茶道、華道、和楽演奏など美しい絹衣装と関係深い伝統芸能が発達してきた。

しかし、近年農・工業や生活様式の変化などによって事態が急変し、いまや存亡の危機に瀕している。アエラNo.22号誌（6月3日、朝日新聞社発行）では、「50億円産業に80億円の国費投入」と題し、国の過剰な保護策が養蚕業の体質を極度に弱め、かつての栄光を誇った伝統産業は「文化遺産」としてのみ名を残す運命なのだろうか、の見出しで、3頁にわたるレポートを掲載している。

現在進行中の一大転換期にあって、伝統産業の技術と文化とを継承する道を模索することは至難の業であるが、ただ傍観することはできない。

ここでは、身近に見られるシルクに関する博物館・民芸・友の会活動などに着目し、ソフト面から庶民の日常生涯に深く根差した行き方を検討した。

2. 資 料

1) 蚕学研究室・教室（実質的）のある大学

北海道大学農学部応用生命科学科 東京農工大学農学部生物生産学科
宇都宮大学農学部生物生産科学科
東京大学大学院生命科学研究科
信州大学繊維学部応用生物科学科
名古屋大学農学部応用生物科学科
京都工芸繊維大学繊維学部応用生物学科
九州大学農学部農業生物学科

同 附属遺伝子資源研究センター家蚕遺伝子部門

2) 蚕糸の研究機関（都府県の機関を除く）

農林水産省蚕糸・昆虫農業技術研究所
農林水産省横浜農林水産消費技術センター
大日本蚕糸科学研究所
カネボウシルクエレガンス(株)

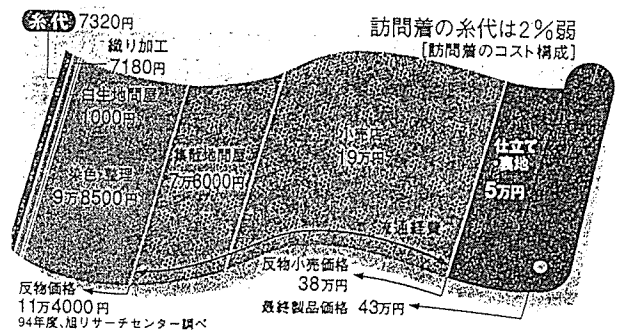
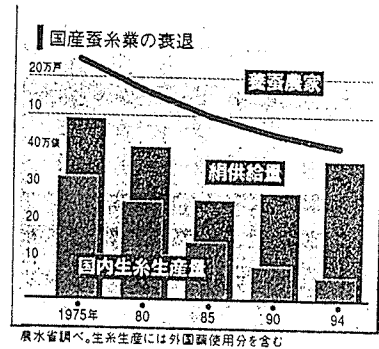
「アエラ」掲載の資料（下2枚）

3) 蚕糸関連の学会

日本蚕糸学会
製糸絹研究会
日本野蚕学会

4) 蚕糸絹業関係の機関（中央のみ）

全国養蚕農業協同組合連合会
日本製糸協会
全国国用器械製糸工業組合
日本真綿協会
日本絹業協会
日本絹人繊維織物工業会
蚕糸砂糖類価格安定事業団



5) 蚕糸博物館・資料館

名 称	所 在 地	電 話 番 号
絹の道資料館（市立）	〒192-03 八王子市鍵水989-2	0426-76-4064
グンゼ博物苑	〒623 綾部市青野	0773-43-1050
*ぐんまシルク会館（県立）	〒370-35 群馬郡群馬町金古	0272-23-1111 内線 2872
蚕糸科学研究所展示コーナー	〒169 東京都新宿区百人町3-25-1	03-3368-4891
蚕糸記念館（市立）	〒371 前橋市敷島町262 敷島公園内	0272-32-2891
シルク博物館	〒231 横浜市中区山下町1	045-641-0841
市立岡谷蚕糸博物館	〒394 岡谷市本町4-1-39	0266-22-5854
野村町シルク博物館	〒797 愛媛県東宇和郡野村町 大学野村8号	0894-72-3710
東京農工大学工学部附属繊維博物館	〒184 小金井市中町2-24-16	0423-88-7163
農水省蚕糸・昆虫農業技術研究所展示室	〒305 つくば市大わし1-2	0298-38-6026

* 平成10年度に開館予定

6) 蚕糸絹業 サークル・研究会の例

名 称	場所、事務所	電 話	備 考
大石紬塾	〒401-03 山梨県南都留郡河口湖町大石 大石紬伝統工芸館	0555-76-7901	町営、県織工試と大石紬館とで指導する
多摩シルクライフ研究会	〒184 小金井市東町4-28-3 小此木エツ子	0423-81-5230	地域の蚕糸絹業を主体とする約30人の研究会
つむぎ教室	〒176 都内練馬区小竹町2-15-7 平尾絹精練工芸研究所	03-3958-7163	養蚕、製糸、染色、編織等12名の研究グループ
特別サークル・絹研究会	〒184 小金井市中町2-24-16 東京農工大学工学部附属繊維博物館	0423-88-7163	養蚕、製糸、染色、編織等12名の研究グループ
21世紀の絹を考える会	〒603 京都市北区大宮西総門口町421 山口安次郎	0894-72-3711	年間10人程度の受講生公募
野村町織物講座	〒797-12 愛媛県東宇和郡野村町野村 野村町織物館	0894-72-3711	年間10人程度の受講生公募
ユギ・ファーマーズクラブ	養蚕 〒192-03 八王子市堀之内146 小谷田昌弘	0426-76-8407	農業と開発の共存をはかる。会員約300人、秋に収穫感謝祭開催
	酪農 〒192-03 八王子市堀之内862 伊原 満明	0426-76-8602	

信濃毎日新聞社



篠原昭 嶋崎昭典 白倫 編著

絹の文化誌

東京農工大学工学部附属
繊維博物館の行事

☆ 子供科学教室

日 程	テ ー マ	担当教官名
平成8年 5月25日(土)	海水を水と塩に分離する膜を作ろう	国眼 孝雄
6月8日(土)	よく上がる服を作ろう	亀田 正治
7月13日(土)	プラスチックペンダントを作ろう	佐藤 壽彌
9月28日(土)	バイオテクノロジー入門	早出 広司
10月12日(土)	形状記憶合金ってどんなもの?	額根 明伯
11月23日(祭)	コンピューターに教えよう(part1)	小谷 善行
12月14日(土)	コンピューターに教えよう(part2)	小谷 善行
平成9年 1月11日(土)	宇宙線を見よう	室尾 和之
2月8日(土)	金属っておもしろい?!	高橋 徹
3月8日(土)	ダイナボードと遊ぼう	中川 正樹

☆ サークル講習会

一般の方を対象に繊維博物館サークル会員が計画し指導するもの。講習会の内容は1ヶ月前に計画され、広報されます。

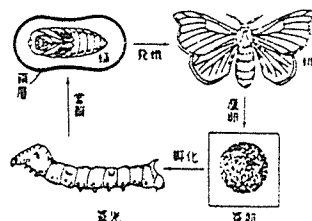
7月3日(水)	レース研究会
7月17日(水)	組ひも研究会
9月6日(金)	藍染研究会
9月17日(火)	ひも結び研究会
10月8日(火)	織物研究会
10月24日(木)	手紡ぎ研究会
11月27日(水)	和紙絵研究会
12月5日(木)	型絵染の会
12月13日(金)	わら工芸会
1月22日(水)	袖瑠かご会
2月7日(金)	手編の会

☆ 講演会と催し

- 文化講演会「コシノジュンコの世界」5/27(土)
コシノジュンコ(ファッションデザイナー)
約300名
- 特別講演会「やさしい化学繊維」9/28(木)
並木 寛(繊維博物館学芸員)
約70名
- 特別展講演会「江戸小紋に生きる」11/11(土)
小宮 康孝(江戸小紋無形文化財保持者)
約180名
- 文化講演会「遺伝子プライバシー」3/23(土)
高木英也子(東横学園女子短期大学教授)
約200名
- 繊維博物館の催し
 - 七夕祭→7月7日前後1週間、「乞巧奠」といわれ女性の技芸向上を祈願する伝習。玄関先にて見学者から短冊祈願を受付た。
 - まゆ玉祭→1月24日 まゆ玉飾り(約30名参加)
玄関ホールにて樫の木にダンゴをつける。
1月27日 どんど焼き(約80名参加)
館庭にて大きいき火をし、繭ダンゴを焼き、その年の無病息災、家内安全を祈願。

平成6年度
東京農工大学工学部附属繊維博物館
第2回公開講座

座繰と手紬の実習講座



平成6年11月10日(木)
11月11日(金)

主催：文 部 省
東京農工大学工学部附属繊維博物館

■■■■■■■■■■ 第9回 支部が推薦する博物館情報 4. 東京支部 ■■■■■■■■■■

子供科学教室の開催

重 松 正 矩*

I. はじめに

本館は百年以上の歴史を持つユニークな繊維博物館であるが、社会への一層の貢献策として地域住民を対象に15年前から博物館友の会によるサークル活動を開始し、現在活発に運営されている。

しかし、これまで小・中・高生などに対する特別な企画はなされなかったが、今春行われた当館協議会の席上、宮田清蔵館長の提案を受入れ、小・中学生を対象に協議員を中心とする本学工学部教官による「子供科学教室」を開催することになった。別表にその行事計画を示す。宮田館長は子供科学教室の開催にあたり下記のようなことを挨拶の中で述べている。

最近大学受験生の理科系離れが進み、将来の深刻な科学・技術者不足につながり、教育研究機関のみならず、科学・技術に関連する業界全体に危機感が広がっている。理科系離れの一つの理由には、子供達が偏差値を上げる勉強のみに忙しいために実験を通して物を作る喜びの体験をする事が極めて少なくなっていることが考えられる。そこで小・中学校が休日である第2土曜日に工学部の先生方が指導する子供科学教室を開催することにした。実験を通して理科に興味を持たせ、子供達にとって科学が将来に対する憧れの対象となることを期待している。

こうした企画を早速地元の小金井市報に掲載してもらったところ大変な反響を呼び、当初定員30

名を予定していたが、急遽50名に増員した。

II. 分担テーマと参加者・保護者への案内文

私は本学で分析化学、材料科学、有機生物化学特論などの授業科目を担当しているが、狭義の専門は製糸学である。繭は蚕によって作られるからある程度は蚕に関する知識も有しているし、さらに最近では生糸を使う絹業に接する機会も多くなっている。

そこで、私の分担する科学教室は内容的には蚕→繭→生糸→絹、即ち原料（農産物）から製品作り（手工業品）までを含ませることにし、テーマ

子供科学教室の行事計画

回	日 程	名 称	担当教授名
1	平成5年 6月12日(土)	色の科学(1)―たまねぎ染― たまねぎで染物ができると 知ってる！	重原淳孝
2	7月10日(土)	「まゆ」の不思議 (ふしぎ)	重松正矩
3	7月31日(土)	懐える電池を捨てないで 電池チェッカーを作ろう！	鹿野快男
4	9月11日(土)	「プラスチックペンダント」 を作ろう！	佐藤寿彌
5	10月9日(土)	「光電話」を作ろう！	梅田倫弘
6	12月11日(土)	コンピュータに教えよう	小谷善行
7	平成5年 1月8日(土)	影と強さを考えよう	壁矢久良
8	2月12日(土)	「まさつ」の科学	山本隆司
9	3月12日(土)	色の科学(2) 日光写真を作ろう！	森田全三

* しげまつ まさのり 東京農工大学工学部物質生物工学部講師・附属繊維博物館協議員

を“「まゆ」のふしぎ”とした。

なお、子供科学教室では毎回開講に先立って、参加者と保護者宛に、所持品などの連絡事項をも含めた案内状を発送することになっているが、私は保護者にもこの機会に館のことについて知ってもらうよう次のような内容を案内文の中に入れた。

本学工学部は本年をもって創基109年で、明治17年東京の日比谷（現帝国ホテル）に創設された蚕病試験場を起源とし、その後東京都北区西ヶ原に移って東京高等蚕糸学校となり、昭和15年に小金井に移って東京繊維専門学校と改称し、昭和24年に東京農工大学となり大学設立41周年を迎えた。

生糸は明治から昭和初期にかけて輸出の太宗として、わが国経済発展の基盤を確立するとともに輸出振興の源となった。一方、学術面では遺伝学への貢献はもとより、蚕品種の改良と製糸技術の発達により他国に例を見ないわが国独自の発展を続けた。近年わが国での産繭量は減少しているが、発達した蚕糸の学術・技術を学ぶため、養蚕の発祥地である中国などから多くの留学生が本学にも来ている。

カイコ（家蚕）は、①自然状態でも人為的な刺激によっても突然変異をおこしやすい、②雌蛾は一匹で400～600の卵を一晩のうちに産む、③卵は人工孵化法で希望のときに孵化させられる、④世代は比較的短く1年のうちに4～5世代を重ねることも容易、⑤品種の特徴が明確に現れるので品種改良の指標となる、という特徴をもっているため、早くから遺伝、生理、病理などの研究材料として使われてきた。

カイコが繭を造るのは、生体内に遺伝的に組み立てられたプログラムによるもので、カイコとしては繭造りを行わなければ（糸を吐かなければ）、蛹になることも生き残って種族の維持をはかることもできない。人はカイコのこうした習性を利用し、さらに改良することにより生活や社会の中に種々のドラマを展開して来た。まさしくカイコの造る1粒の繭に人の知恵と文化がある。この繭の神秘について科学的な観察を行い、最後に製品造りを計画している。

Ⅲ テキストの作成

当教室第1回に開催された「色の科学(1)」の担当者がテキストを作成したことを引継いで、私もテキストを作成した。ここで使用する用語の“かいこ”は家蚕と野蚕を含めたもの、“カイコ”は家蚕のみを示す。

また、カイコの歴史は大変古いので繭の用途も数多くあるが、主な用途は衣服である。その他にも美術・工芸・工業用材料に使用されている。最近では食品・化粧品・医療・バイオテクノロジーなどにも幅広く使用されていることをテキストに記しておく。

Ⅳ 準備

開講に備えて前日までに用意した主要物品及び機器は次のようである。

①繭の組合わせ見本—繭の形は、俵形、楕円形、長楕円形などがある。また、繭の色は一般に白色が多いが、黄色、笹色、赤黄色などがある。そこで参加者一人ひとりへの繭見本として、形と色とを組合わせた数個の繭を小さなポリ袋に入れたものを50個準備した。

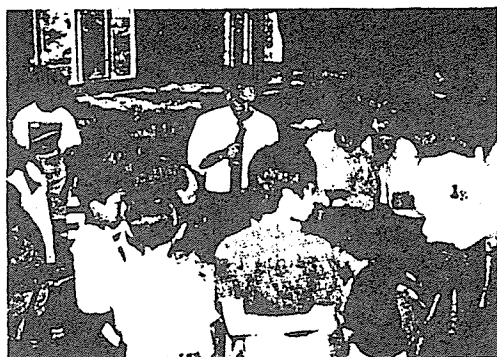
②くみひも用材料—西陣織機屋から払下げてもらった色あざやかな絹糸（生糸の表面にあるセリシンというのり状の物質を薬剤によりある程度除去したもの、こうした工程を精練と呼ぶ）を8個の糸巻にまいたものと、ボール紙製のくみ台モデルとをセットにしたものをポリ袋に入れ、50個用意した。

③顕微鏡—研究室から4台の顕微鏡を搬入し、各々生糸の断面及び側面、ナイロンの断面及び側面の観察が行われるようにした。

④煮繭用具—製糸工程中、繭を煮る工程を煮繭と呼ぶが、最も簡単な鍋煮繭法で繭を煮るため低温用と高温用のための2個の鍋と電気コンロを用意した。⑤座繰器—煮繭した繭から生糸を製造するために最も簡単な繰糸器である左手座繰器2台を借用して搬入した。

V 開講

当日の受講者は小学生45人（4年生2人、5年生32人、6年生11人）、中学生5人（1年生4人、



開講風景

2年生1人)の合計50人(小学5年生1人と中学2年生1人の外国人を含む)であった。

開講に際して特に心掛けたことは、①平易な用語を使ってやさしく説明すること、②あきないように極力実物と関連づけて説明すること、③実験・実習に重きをおき、各々に複数の指導者を配置して交流を深めること、などである。

基礎的説明に約40分、観察実験に約45分、実習に約45分、まとめ(質疑応答を含む)に約20分を振当てた。

まず基礎的説明として、用意した5令のカイコ(2~3日中に繭を造る予定の大きなもの)、多種多様な家蚕繭、各種の野蚕繭(天然自然に自生している蚕の作る繭)、生糸及び絹糸のかせ糸などを提示し説明した。

その後、全体を2班に分けて各々を実験(顕微鏡観察、カイコの糸の吐き方の観察)と実習(煮繭、繰糸、くみひも)とに振分け、約45分経過後交代した。

なお、顕微鏡観察及びカイコの糸の吐き方の観察結果は、予め用意しておいた用紙にスケッチさせた。

ここで一寸カイコの糸の吐き方の観察方法に触れておくと次のようである。①煮繭した繭から1本の正しい糸口を取り出す、②灯油ランプなどを使って繭の表面を黒くいぶす、③ゆっくりと糸口を引っ張る、④カイコの種類、繭の部位(場所)

などによって各々の8・S・V字型の吐き方が繭の表面に白く現われる(この方法を煤煙法と称す)。ただし、この技術は少々熟練を要するので研究室の学生に前日リハーサルしてもらい、当日朝用意したものを教材にした。

観察実験の説明係は、顕微鏡に関して1名、繭糸の吐き方に関して1名配した。

他方、煮繭実習は一部熱湯を使うこともあって安全上説明者が中心になって行だったが、繰糸実習は説明後受講生が用意した2台の座繰機をフルに動かして大変活発に行った。繭から繭糸が取り出され、それが幾本も集合して生糸が製造される工程に子供達は興味津津の様子であった。

また、くみひもは特に女子受講生にとって特別関心が高く、組み方を短時間で理解して美しい色彩の製品を素早く仕上げ、満足げな光景が多々見られた。

VI おわりに

日常大学生を対象としている私にとって、小・中学生を相手にすることは不安であったが各位の応援を得て無事終り、私にとってもよい体験を得た。今回の開講を通しての反省点は、①時間に対して内容過多となっていないか、②使用した用語(特に専門用語)の理解が困難でなかったか、③説明者の声はよく聞き取れたか、④教材や見本は適切であったか、などである。

なお、開講に対する具体的な反応を列挙すると、「きれいな色の繭と美しくくみひもの材料をもらって嬉しい」、「早く帰って繭やくみひもを家族に見せたい」、「カイコと繭と生糸の関係がよくわかった」などの声が聞かれ、後日出席者の父母から親しくお礼の言葉をいただいた。参加した登校拒否児童が、閉講後「おもしろかったから次も来るよ」と言って帰ったということもある。

最後に、当子供科学教室が当初の目的を果たして受講生が自然科学に興味を持ち、さらに博物館及びその活動に関心を持つ動機となれば誠に幸いである。

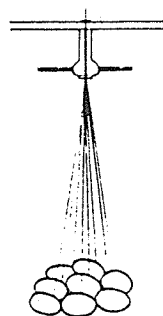
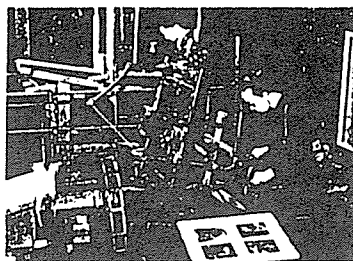
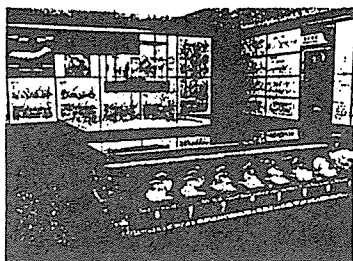
「シルク博物館」

絹ができるまで 1F

観覧のしおり

ここでは……

蚕の一生は、神秘そのものです。このような蚕の生態のさまや繭から糸がつくられる過程、そして糸の種類と、それらを原料にして織られ、染められてゆく複雑な作業工程が展示されています。



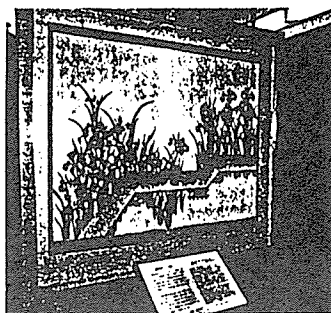
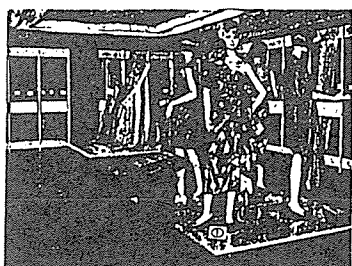
くわしくは

展示資料について、ご質問にお答えするために「質問コーナー」を設けております。お気軽に事務室にお越しください。

洋装 1F

ここでは……

洋装生地にも相が多く用いられております。こうした点から相の種類を織と染とに区別して、それぞれのもっている美しい特色が鑑賞できるよう展示されています。



室内装飾品 1F

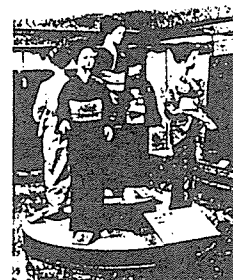
ここでは……

室内を落付きのある豪華さに飾る相の姿が鑑賞できます。

和装 1F

ここでは……

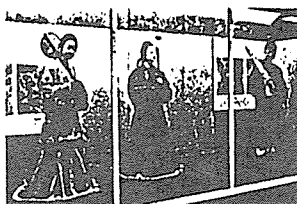
世界の民族衣装の中でも、とりわけ美しいといわれる「きもの」の織や染について、理解を深めるため、現代の代表的な作品が展示されています。



日本時代風俗衣装 2F

ここでは……

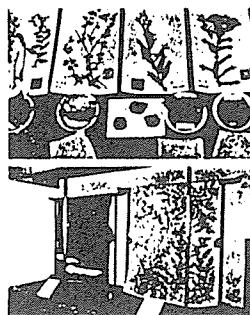
古代から現代に及ぶそれぞれの時代における衣装が、どのようなかたちで、私達の祖先に受け継がれてきたかということを、緻密な考証のもとに復元して鑑賞に供しています。



時代衣装 2F

ここでは……

江戸時代前期から大正時代にかけての小袖、着物、能装束、時代型人形などの実物を展示しています。これらは現代へ直結してはいるが、それだけに身近な親しみが改めて感じられるものです。



そのほか 2F

ここでは……

草木染資料、養蚕関係図録、芸能風俗、人間国宝作家の作品等が、貴重な資料として展示されています。



1994年(平成6年)6月 杉並・絹まつり新聞

21世紀の東京シルクを目指して...

杉並区はシルクの街

私たちが暮らしている杉並区には、元蚕糸試験場(杉並区和田)があり、都内唯一の蚕・絹に関わりをもつ区です。

試験場跡地には現在、蚕糸の蚕公館として区民の皆様方に開かれられております。

また、区の文化財にも蚕糸製に関わるものも多く残されており、明治時代まで盛んに製作が行われていた事がうかがえます。

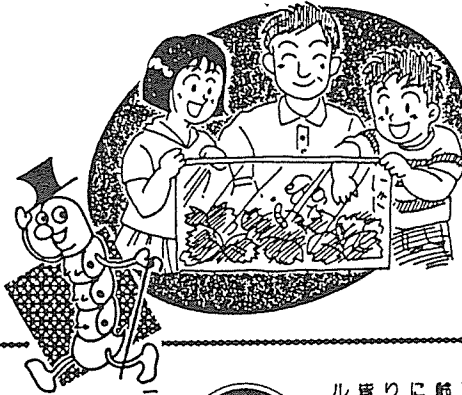
そんな町「杉並」の街像は、製作から生糸作り、そして絹作りを体験していただき、その素晴らしいさに感動していただき、口ずかす伝統産業である蚕糸・絹製になす「さむもの」で、「も」・「絹」・「絹」の

6月10日金・14日火
西友荻窪店3階特設会場

絹とのふれあひ、
杉並・絹まつり

主催・杉並絹まつり実行委員
後援・東京都農林試験場(協力)多摩シルクライフ21研
協賛・西友荻窪店・きもの京町

を開催するのことがなりました。
伝統を体験するのことが「新しい杉並」が見えてくるかもしれません。
皆様、ふるまひに参加してください。
さむもの、新しい申して頂きます。



一人一蚕飼育運動

●6月11日(土)・12日(日)
先着500名様に配布いたします。

蚕をみんなで育てて作ろう、
杉並の旗!!

東京都農林試験場の協力をいれた蚕糸飼育運動をしていただき、一週間にわたり糸を吐き繭を作り出す(の繭作り)を体験していただきます。この区民の皆様の手により作られた繭を無めシルクの区旗を製作し、区に贈呈致します。

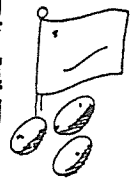
体験② 蚕、繭のいろいろ展示コーナー

- ◆1時から5時のまでの蚕
- ◆野良天蛾や黄斑天蛾など珍しい羽色繭
- ◆繭の産下がお買得になっている
- ◆蚕一品種「小豆」

「ハネル・ビデオ」を見る
蚕から繭、生糸製品まで



体験①



体験③ 手作り美演コーナー

伝統と感性にみちみちた技術を目のあたりに体験できます。
新しい発見がまたひとつ!!

●繭から生糸作り・多摩シルクライフ21研究会

●小此木エツ子さん

●糸紡ぎ・繭物研究家 西村光さん

●手廻り奏演・山村多美子さん

●組紐実演と展示(高尾野草染・綾竹組紐) 一草田さん

●手描染色・染色家 田澤野さん

体験④



絹づくり相談コーナー

〈6月12日(日)1日限り〉
蚕のこと、繭のこと、絹織物のことなど皆様の疑問に専門家がわかりやすく答えます。
何でも相談ください。

答えてくださる方々

- 東京都農林試験場 杉田 英夫先生
- 八王子市 中山寿次郎先生
- 平塚市 平尾 銀蔵先生
- 工学研究所 小此木エツ子先生
- 多摩シルクライフ 21研究会

シルクの町再生へ

生糸加工施設が整備されるシルク博物館周辺



愛媛新聞

平成8年(1996年)3月23日(土曜日)

秋に加工施設完成 西陣業者へ指導要請も

今回の計画では、「伊予生糸」を産出してきた野村の気候風土を生かして質の高い特殊生糸を試験生産。その生糸を使って反物など最終的な織物製品を作り出す。シルク博物館の東隣に生糸加工施設の製糸・織物

棟(木造二階建て約三百六十平方メートル)を今秋までに建設。自動繰糸機、多乗繰糸機、撚糸(ねんし)機などを置く製糸作業場や、織物を織る野村ダム近くに開館し、繭作りから織物までトータルなシルク研究を重ねてきた。

かつて質量ともに県内一の養蚕産地だった同町では六年三月末、興蚕糸連野村工場が閉鎖。同年七月には町が衰退した蚕糸業の生き残りをかけシルク博物館、織物館を野村ダム近くに開館し、繭作りから織物までトータルなシルク研究を重ねてきた。

東宇和郡野村町は八年度から、県内から姿を消した製糸作業場などを新たに整備し、繭作りから製糸、染織まで一貫生産で高付加価値の高級絹織物製造に取り組む。全国に名を知られた「伊予生糸」のブランドを復活させ、新しいシルクの町としての再興を図る。

町が西一*につき三千万を価格保証し、町内二十一戸の養蚕農家が生産する年間約六千の繭を全量買い上げ、原料として使用。京都・西陣の業者などの織物指導を受ける方向で現在話を進めている。

織機十台を備える織物室では織物講座も開設し、全

園から年間十人程度の受講生を公募。今後、各地の織物作家の作品コンペや、養蚕体験ツアー、染織文化講演会なども開催し、染織文化の町として広くアピールする。

野村 織物まで一貫生産に着手

ミュージアムボランティア(MV)の基本的な考え方

茨城県自然博物館 中川志郎

当館のMVは、開館時(1995.11.12)に計画され、博物館活動システムの中に位置づけられています。今回は、MVに対する当館の基本的な考え方について述べることにします。

平成7年は“ボランティア元年”と呼ばれました。阪神大震災を機にしてボランティア活動が大きな広がりを見せた年だからです。

その背景となっているのは、生活水準の向上、自由時間の増大及び平均寿命の伸長などの社会的変化が、物理的豊かさから精神的豊かさへの移行を促していることがあります(社会教育審議会社会教育施設分科会報告、1986.12)。

そして、これらの社会的な変化をふまえてのボランティア活動への具体的な提言は、生涯学習審議会の答申の中で明らかにされています(1992.7)。即ち、生涯学習社会におけるボランティア活動は、慈善や余暇消化の中にとどまるものでなく、次の三つの視点を併せ持つということです。

- ①ボランティア活動そのものが自己開発、自己実現を図る生涯学習であること
- ②ボランティア活動に必要な知識・技術の習得は生涯学習そのものであり、その成果の実践がボランティア活動であること
- ③ボランティア活動の振興が生涯学習の推進につながるものであること

これをつづめて申しますと、生涯学習社会におけるボランティア活動は、他人のために何かをしてあげる、というだけでなく、そのことによって自己開発の機会とし、よりよい自己実現を目指すものだ、ということになります。

このような社会的環境の変化と博物館施設との関わりは、文部省が、社会教育施設を“生涯学習の中核的存在”(社会教育課)と位置づけていることから明らかなように、生涯学習の重要な推進施設として期待される存在となったのです。

即ち、生涯学習とボランティア活動は強い結びつきがあり、その活動の実践の場として博物館は重要な役割を担うことになったといえるでしょう。

私たち茨城県自然博物館は、この重要性を正しく認識し、当館での博物館ボランティアを次のような位置づけとしています。

1. 博物館ボランティア(MV)は、博物館スタッフ(MS)と共に、生涯学習時代の博物館活動を支える重要なパートナーであること
2. 博物館ボランティアは、博物館活動を通じて、自己開発を図り、よりよい自己実現を目指す生涯学習者であること
3. 博物館ボランティアは、“友の会”の中核的存在であり、市民と博物館、利用者と博物館を結ぶ連結者であること

「絹に関するノート」

米山達雄著 富民協会発行

絹に関するノート・目次

まえがき

序 章 絹と人間

I 絹と現代の繊維事情

II 最古にして最新の繊維「絹」

III 日本人と絹

1 日本史にみる絹

(1) 縄文・弥生時代から奈良朝時代（紀元前二世紀ごろ～八世紀）

(2) 平安時代から鎌倉・室町桃山時代（九世紀～一六世紀）

(3) 江戸時代（一七世紀～一九世紀）

(4) 明治時代から太平洋戦争終了時まで（一八六八年～一九四五年）

① 皇室の御垂範 139 ② 明治政府と蚕糸業 141

③ 絹織物の需給事情の推移 144 ④ 生糸需給事情の推移 145

2 日本の近代化に果たした絹の役割

3 日本人の美意識と絹

(1) 自然環境風土と自然観——日本の美意識の基盤——

(2) 色彩について

① 日本人の色彩感の変遷と絹 162

② 合わせの色目・重（嬰）ねの色目 166

(3) 紋様について

(4) 舞台芸能と絹

① 舞楽 180 ② 能楽（能狂言） 181

③ 歌舞伎 184 ④ 日本舞踊 185

註）I・II・III章の節は省略した

4 日本の伝統染織技術

(1) 日本の染と織

① 染の技術 188 ③ 織の技術 192

(2) 伝統織物の現状

① 伝統織物の発生 197

② 今後の伝統織物のあり方談議 200

IV 現代のきもの論

1 日本人ときもの

(1) 日本風土ときものの合理性

(2) 戦前の絹のきもの観——母と娘の述懐から——

① ある老婦人の感懐 219 ② U夫人の追憶 223

2 現代のきものに関する概念

(1) 染と織による分類

① 染のきもの 228 ② 織のきもの 230

(2) 着用目的による分類

① 礼装 231 ② 訪問着 231 ③ 趣味着 232

④ 平常着 232 ⑤ 夏着 233

(3) 白生地

(4) 帯その他付属品

3 きものの現状と問題点

(1) 最近の各種調査にみられる動向

(2) 普及振興運動の問題点

V 絹の将来展望と生産の現状

終章 絹の生産振興のために——大前提は日本農業の復権——

「絹に関するノート」による

伝統織物のうち絹に關係あるもの

都府県	名	産地	都府県	名	産地	都府県	名	産地	都府県	名	産地
青森	弘前手織	弘前市	群馬	高崎絹△	高崎市	新潟	十日町織物	十日町市	滋賀	浜ちりめん	長浜市
岩手	南部縮△	盛岡市		前橋絹△	前橋市		亀田織△	見附市		浜	〃
	南部縮△	〃		伊勢崎織	伊勢崎市		五泉平	五泉市		ビロー△	〃
宮城	仙台平△	仙台市		桐生織物	桐生市		加茂羽二重△	加茂市		金	八幡町
	八幡織△	〃	埼玉	館林絹△	館林市	富山	城端絹	城端町	京都	西陣織物	京都・後山・嵯峨町他
	仙台二重	〃		秩父絹	秩父市		井波絹(袖)	井波町		丹後ちりめん	〃
	仙台二重	〃		秩父越平	秩父市	石川	加賀絹	加賀市・小松市	大阪	一乗金紗(金襴)△	和泉市
秋田	秋田八丈織	秋田市		八王子織物	八王子市		小松絹	小松市		どんす	〃
	秋田敵織	〃	東京	村山大島袖	村山市	福井	白山絹	石川郡白山市		丹波布	丹波町
山形	米沢織	米沢市		青梅八丈	青梅市		奉書二重△	大野市・福井市・石川郡白山市	兵庫	丹波ちりめん	出石町
	鶴岡織△	鶴岡市		黄八丈白袖	八丈島		羽二重△	〃		明石縮	明石市
	長井織	長井市	神奈川	川名絹△	川崎市	静岡	ざざんざ織(袖)	浜松市	鳥取	裂絹	広瀬町
	白鷹お召	白鷹町		津久井絹△	津久井市	愛知	尾州絹△	名古屋市中区	福岡	博多織	福岡市
	米	〃		〃	〃		額田二重△	木曾町		佐賀錦	唐津市
福島	羽二重△	福島市	山梨	甲斐絹	郡内地方		名古屋二重△	名古屋市中区	佐賀	佐賀錦	唐津市
	二本松縮	二本松市	長野	山崎田田	松本市	三重	松阪△	松阪市	宮崎		
	川俣絹	川俣町		飯田田田	飯田市		岐阜ちりめん△	岐阜市			
茨城	結城縮	結城市		おこんどちりめん△	〃	岐阜	紋羽二重△	岐阜市	鹿児島	大島	奄美大島
	石下縮	石下町					絹	〃		〃	鹿児島市
栃木	足利銘仙	足利市					総絹・表具地	加納町			
	佐野絹△	佐野市					神官法衣地	中屋町	沖縄	琉球縮△	宮古島

- 註) 1. 富山・大野氏書 日本の伝統織物、通商手書 織物の日本史による。
 2. △は縮減または増減に示されたと伝えられるもの。
 3. 麻・絹などの分類のものを含む。

「シルクの科学」 朝倉書店

絹織物の種類と用途

		原糸および織物の種類		(主な用途)
家 装 織	生 糸	先練織物 (先染織物)	お召 タフタ サテン ファイユ ブロード、錦類 ピロード	和装着尺 婦人服、ブラウス、ガウン ドレス、ランジェリー、裏地 ドレス、ストール 婦人服、帯、袋物、表装用、夜具地 高級洋装、帽子
		後練織物 (後染織物)	羽二重 縷子 縮緬(クレープ類)	ブラウス、マフラー、和装着尺、帯 訪問着、和装着尺・羽尺 和装着尺、ブラウス、ドレス
		セリシンを残した織物 (生染め)	シルクオーガンジ ー シフォン 縹 絹	ショール、カーテン、芯地 ドレス、ブラウス、ショール 製粉・製薬用紙、包装用スクリーン
	玉 糸	先練織物、後練織物 (先染織物、後染織物)	シャンタン リンシャン 節 絹	服地、壁紙地、表装地 服地、裏地 和装着尺、和装裏地
野 蚕 織	絹紡糸	(先染織物、後染織物)	富士絹 スパンクレープ ノイルクロス	ワイシャツ、ブラウス、風呂敷 婦人服 服地、ショール地、夜具地
	紬 糸	(先染織物)	紬	和装着尺、民芸品
	柞蚕糸	(先染織物、後染織物)	ボンジー(絹紬)	婦人服、ブラウス、ショール、パジャマ
	天蚕糸	先練織物、後練織物 (先染織物、後染織物)	山笠紬、山人縮緬	高級和装着尺

火 災 防 災 課

アサヒ タウンズ

1996年3月2日 土曜日

ある野市引田(下7、東京府農業試験場秋川行倉)(旧部糸系は除出)で、
15日10-16時、嗣から糸をつくり、真綿から糸を紡ぐ①(むき過程②が関かる)、嗣から糸をつくる過程で出る副産物と御手紙、玉蚕や真綿などの関係品を使って、さまざまな製品をつくる工程を知った。
つぎは蛹の生産地だった多摩の萩を使って、多摩ブランドのシルクを作ること、昨年4月に完成された「多摩のシルクイブ」プロジェクトリーダーの小比木エツ子さん(元東京府立工大・学

かつて多摩は繭の大生産地
その地場産の屑繭を使って
「むさ方」を学びませんか

同、葎草と製糸の研究、平尾精雄著
葎草の製糸研究、三谷清樹著
 絹のつくり方、真綿から糸を紡いだた
 1、助糸機を使つて糸を細く技術を描
 導。
 ●仕度費は6300円。30人。
 ●材料、往復料金を減して、送信用用
 給、電話、電報番号を減して、送信用
 金に充てて名を)、10日以内に、下川小
 金井市東町4-28-3、多摩シルクウ
 イフ、1研究所会事務局、小比佐ツ子さ
 んへ、(株)O423-1811-23030303
 同事務局。

第18回 小金井薪能



今年の演目(屋島一弓流)

[illegible]

共催 小金井鉄砲、小金井市役所、東京府教育委員会、市教育委員会ほか
開会先 小金井鉄砲事務所（会
場）

「此は新能を招く爲に多摩川沿ひに初めて上演して以來、今年で最盛期を過えませう。」
「此の心はたゞし水を得た魚の如き世界を繰り広げる新能をお客様にの覧になりませんか。」と云ふ。8月25日(日)午後一時30分(8時30分)三時(晴劇場)

とて、都立小倉井公園で東京
京たてもの直前（開天・東京電
機大・高松アリナ）
内容▽眞井明子・摩訶、
羽（にんば）▽木道りによる火
入れの儀式▽狂言石神（い
しがみ）・野村万作・野村胡堂
▽能・豊島・高流（やし）

能楽教室(無料)
と書 8月20日(日)午後1時

は、柳田泉、土曜日生前会
30分かつ午後4時30分まで、小
金は西子俱会會所、東京市警
(見風賣の年終)で参事、柳
界をお受け取りください。

写 真 展

へまろじゅうギャラリー

第2章 空洞化を超えて

(5)



伝統産業が危殆に立っている。とりわけ日本文化の結晶とされる着物産業の危機は深刻で、地域社会の崩壊として構造変革に取り組み動きが広がってきた。伝統に拘れたモノづくりを地域をのりこみ再構築するが問われている。

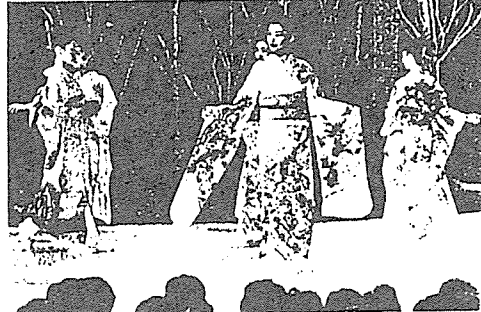
あでやかな着物装束のトップモデルたちがステージの上をチヨウのように舞い踊った。着物装束は総勢五十五人。着物と洋服のモデルが交互に登壇。着物のモデルが乱舞する度に観客から喝采のため息が漏れる。京都の和装関係団体などが市動楽会館で五日間行った「ファッションカンタクト」は、着物不況を脱走させない熱意に包まれた。

問屋が激減
その影響から、昨年一過を表現は雄々だが、着物産業は今、大きく揺動している。京都・京野は着物、帯など和装分野で六割以上の販路を閉鎖する。京都観光に訪れた女性が気軽に出入りできる京町家の集

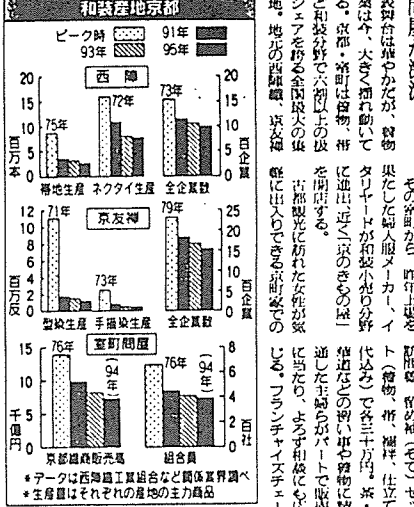
初歩向け小売店。価格は訪問型、留め袖(そで)セツト(着物、帯、襷、仕立て)で各三万円。茶・抹茶などの飲み物や着物に合わせた小売店がバトで販売が注目。ようす相対的に必

着物産業構造変革の潮流

古い慣習から脱皮を



伝統いかし市場拡大



問屋が激減
その影響から、昨年一過を表現は雄々だが、着物産業は今、大きく揺動している。京都・京野は着物、帯など和装分野で六割以上の販路を閉鎖する。京都観光に訪れた女性が気軽に出入りできる京町家の集

初歩向け小売店。価格は訪問型、留め袖(そで)セツト(着物、帯、襷、仕立て)で各三万円。茶・抹茶などの飲み物や着物に合わせた小売店がバトで販売が注目。ようす相対的に必

京野は着物、帯など和装分野で六割以上の販路を閉鎖する。京都観光に訪れた女性が気軽に出入りできる京町家の集

初歩向け小売店。価格は訪問型、留め袖(そで)セツト(着物、帯、襷、仕立て)で各三万円。茶・抹茶などの飲み物や着物に合わせた小売店がバトで販売が注目。ようす相対的に必

あでやか
西陣をイメージした、伝統的な着物が、今もなお京都の街を歩いている。京都・京野は着物、帯など和装分野で六割以上の販路を閉鎖する。京都観光に訪れた女性が気軽に出入りできる京町家の集

初歩向け小売店。価格は訪問型、留め袖(そで)セツト(着物、帯、襷、仕立て)で各三万円。茶・抹茶などの飲み物や着物に合わせた小売店がバトで販売が注目。ようす相対的に必

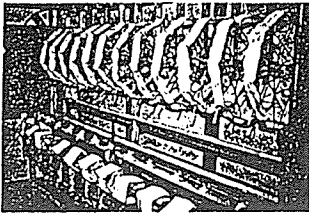
京野は着物、帯など和装分野で六割以上の販路を閉鎖する。京都観光に訪れた女性が気軽に出入りできる京町家の集

初歩向け小売店。価格は訪問型、留め袖(そで)セツト(着物、帯、襷、仕立て)で各三万円。茶・抹茶などの飲み物や着物に合わせた小売店がバトで販売が注目。ようす相対的に必

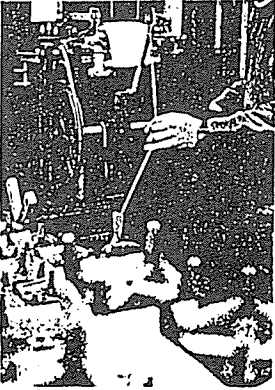
伝統を支える人々……

雅やかな箏、荘厳な琵琶、
粹な三味線……
伝統の和楽器に
「音という」命を吹込む
絃を作る人々。

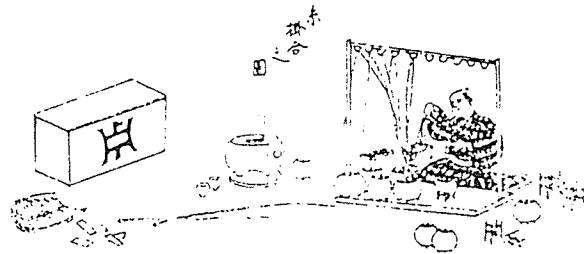
京都市上京区、絃司・鳥羽屋の九代目、
無形文化財選定保存技術保持者の小篠洋之さん。
取材・大久保由美／撮影・桑野恒郎



繰糸。生糸を枠に巻き取る

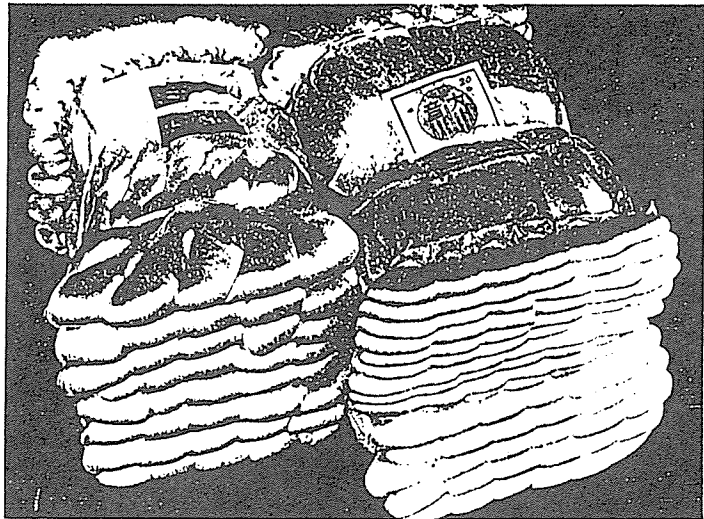


合糸。約50本の生糸を1本にする



「絹糸が原料なのだから、
『弦』より『絃』の字を
使いたい」

何かを極めた方というのは、実に
いいお顔をなさっていらつしやる。
明暦年間（1655）に染物業と
して創業し、嘉永二年（1849）



滋賀県産の生糸

から和楽器の絃を作り続けている鳥
羽屋の九代目・小篠長兵衛（洋之）
さんも例外ではありません。柔和な
お顔と穏やかな語り口の中に、凛と
した気迫のようなものを感じるの
です。

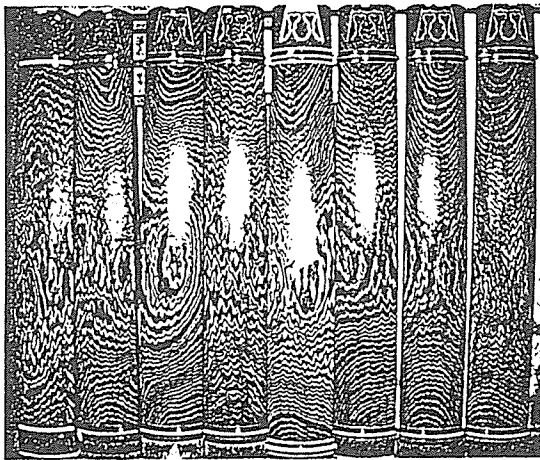
「楽器の命は「音」です」
きつぱりと言いきる小篠さん

伝統を支える人々……Ⅱ

優美な旋律で日本人の心を魅了する箏。
和楽器作りの伝統の技を守り、
未来へとつなげる、箏を作る人々。

広島県福山市・小川楽器製造にて

取材・大久保由美／撮影・桑野恒郎



完成した基礎な箏

箏がたどってきた道

奈良時代に伝来し、雅楽に用いる楽器の一つとして日本に定着した箏は、江戸時代初期に近世箏曲が確立されたことで一大発展を遂げました。その頃、お姫様の楽器だった箏は、明治時代以来、良家の令嬢には欠かせないたしなみの一つになったのです。

そして、時代は大正へと移り、天才箏曲家・宮城道雄の功績によって箏人口は飛躍的に増大していきましました。現在、箏といえは普通は十三絃の俗箏を指しますが、そのほかにも、

楽箏、筑箏、多絃箏（十七絃・二十一絃・三十絃など、絃の数や箏の長さが違う）というように、多種にわたっています。

箏は、例えばまったく素養のない人が調律した絃を適当に弾いても、日本のメロディに聴こえるという特長を持った楽器です。それは、調絃そのものが日本独特の音階を取り込んだものであるからです。このように取っつき易く、それでいて奥の深い箏は、最近では伝統的な箏曲の演奏以外に洋楽器とのジョイントなども行なわれています。



新幹線・福山駅の目にそびえる福山城

3. 民間レベルでの蚕糸絹業と絹文化の継承方法

項 目	内 容
家庭・学校での基礎教育	蚕の飼育（理科教育）、繭加工・絹製品の製作（生糸、真綿、紬糸、組紐等一家庭科教育）、絹製品のよさの体験、絹文化の入門・基礎知識の修得
リーダー（技術者、研究者、教師等）の育成	技術者・研究者の発掘、教師・教育者の育成、学芸員の養成、定年退職者への呼掛け、理系・服装学校生の養成（奨学金の貸与・支給）、ボランティアの養成と制度の導入
計画・宣伝・推進	計画・推進役者の選定、口コミ・新聞・ラジオ・テレビによるPR、村おこし・町おこし運動との連係、生涯教育・文化運動への拡大・情報の収集と伝達
集会場（作業場、学習室の確保）	農家・学校の空部屋利用、部落・村町の集会室利用、蚕糸関係施設・機関の開放、個人の工房開放
テキスト・材料・器材の調達	既成テキストの発掘、新テキスト作成、ビデオ収録、情報の交換と伝達、専門店の育成機材・器材の小口販売化と共同購入・仕入れ、材料・器材の開発
交流と発展	作品発表・展示会、常設展示・販売会、収穫感謝祭、見学会、呼掛人、事務所・協会の設立（規約・運営）、研究会・講演会・実演会の開催、機関誌の発行

4. おわりに

わが国における従前の蚕糸業はとかく政府依存型であり絹文化も言わばよそ行きのものであったと思われる。現今の転換期に際して発想の転換をはかって多面的な方策を講じ、民間人の活力を最大限に引き出して庶民に深く根ざした展開（草の根運動）をする必要を痛感する。

関係各位の英知と熱情を結集し、日本の優れた蚕糸絹業の技術と、ユニークな絹文化を継承して行くことを切望する。